

## 調査結果概要

### (1) ジュゴンと漁業との共生に向けた取組

#### 1) 漁業者との車座会議(平成 16 年度～)

過年度業務から継続し、本業務で明らかになっている沖縄北部におけるジュゴンの生息地を活動場所とする漁業協同組合関係者を対象に、ジュゴンの目撃情報や周辺海域の状況の情報収集を目的として、車座会議を実施した。なお、近年ジュゴンの移動経路の近海に定置網を設置した国頭漁協では、ジュゴンレスキューへの協力依頼を主な目的とした。

(各漁協の車座会議の開催日)

- 今帰仁漁協・羽地漁協 平成 28 年 10 月 19 日 (水)
- 名護漁協汀間支部 平成 28 年 10 月 20 日 (木)
- 国頭漁協 平成 28 年 10 月 18 日 (火)



調査対象地域の主要漁港と漁業協同組合

### ① 漁業者との車座会議の開催(今帰仁漁協、羽地漁協)

場 所： 名護市済井出区公民館

日 時： 平成 28 年 10 月 19 日 (水) 15 : 00～17 : 00

参 加 者： 今帰仁漁協、羽地漁協、今帰仁村、沖縄県自然保護課、那覇自然環境事務所、  
他

主な意見交換内容：

#### ■漁場、海域環境の変化について

・最近はサメが増えた。刺網にカメがかかることがあるが、サメに襲われて手足のないものがある。予算は少ないが、来年漁協で小規模なサメの駆除を行う予定。

#### ■漁業とジュゴンとの共存

・海草藻場は、ジュゴンの餌になるだけではなくて、魚の産卵や稚魚の成長に必要な場所なので、漁業を行う自分たちにとっても大切な場所。最近では海草藻場の面積が減少してきているので、これを増やすべきだと思う。

### ② 漁業者との車座会議の開催(名護漁協汀間支部)

場 所： 名護漁協汀間支部

日 時： 平成 28 年 10 月 20 日 (月) 17 : 00～19 : 00

参 加 者： 名護漁協汀間支部、他

主な意見交換内容：

#### ■漁場、海域環境の変化について

・河口付近や沿岸は海水の濁りが強くなっており、赤土のヘドロが堆積している。白化もありサンゴが少なくなってきたいて、水が浄化されていないと感じる。浅海域の水温が高く、台風後もサンゴの白化が良くなる兆しが見えない。

#### ■漁業とジュゴンとの共存

・ジュゴンの喰み跡モニタリング調査に参加するようになって、海草の種を同定出来るようになり、喰み跡も判別できるようになった。普段の漁の間も海草藻場では喰み跡を探すようにしている。

### ③ 漁業者との車座会議の開催(国頭漁協)

場 所： 国頭漁協

日 時： 平成 28 年 10 月 18 日 (火) 15 : 00～17 : 00

参 加 者： 国頭漁協、国頭村経済課、他

主な意見交換内容：

#### ■漁場、海域環境の変化について

・今年には台風の直撃が無かった。水温が上がってサンゴの白化がおこっている。10 年ほど前も似たような状況になった年がある。

## ■ ジュゴンと漁業との共生について

- ・ 定置網にエイやウミガメなどが入ることがある。昨年はザトウクジラがみち網を2回も突き破いた。ジュゴンが入ったことは無いが、ジュゴンレスキューの情報は共有して、何かあればすぐに連絡を入れたい。

## 2) 喰み跡モニタリング調査の実施(調査対象3海域)

これまでの調査で明らかになっている、ジュゴンが餌場として利用する頻度が高い以下の3海域を対象として、漁業者による喰み跡モニタリング調査を実施した。

各海域と調査を担当する漁協は下記の通りである。

- 古宇利海域 (今帰仁漁業協同組合)
- 済井出海域 (羽地漁業協同組合)
- 嘉陽海域 (名護漁業協同組合汀間支部)



モニタリング調査海域の位置

以下に各海域、漁協ごとの調査結果の概要を示す。

### ① 喰み跡モニタリング調査の実施(今帰仁漁協)

平成20年度から開始した「漁業者によるジュゴンの喰み跡のモニタリング調査」を平成28年度も実施した。昨年度同様に今帰仁漁協、名護漁協汀間支部、羽地漁協の3漁協で、各漁協の漁業者がモニタリングのマニュアルに従いながら自主的にモニタリング調査を行った。

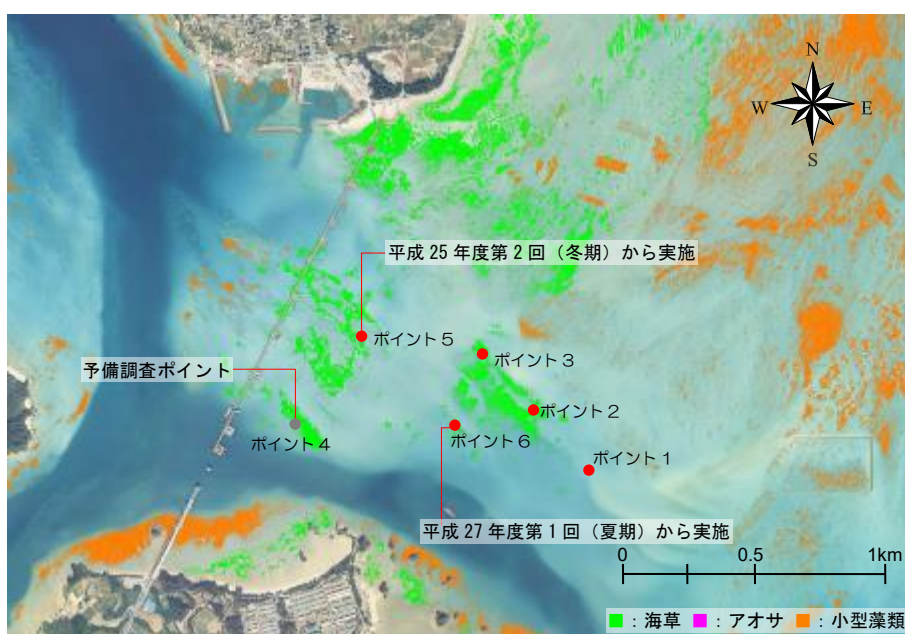
日 時 : 平成 28 年 9 月 23 日 (金) (第 1 回 (夏期))

平成 29 年 1 月 25 日 (水) (第 2 回 (冬期))

場 所 : 古宇利海域 (ポイント 2,3,5,6)

調査結果 :

- ・海草藻場の分布状況の変化から、ポイント 1 を廃止し、新たにポイント 6 を設置した。
- ・ポイント 2、3、5 は海草藻場の分布状況に変化が生じたことから、平成 26 年度調査の場所から各ポイントで 50-100m ほど移動した。
- ・夏期調査では調査ポイント 2、6 で喰み跡が確認された。
- ・冬期調査では喰み跡は確認されなかった。



※藻場分布図：環境省「ジュゴンと藻場の広域的調査 (平成 13 年度～)」画像解析による。図上藻場が無い場所でも、実際の調査地点では藻場が発達している。

### 古宇利海域のモニタリング調査地点

### 今帰仁漁協結果概要(平成 27 年度)

調査ポイント	第 1 回(夏期) 平成 28 年 9 月 23 日(金)		第 2 回(冬期) 平成 29 年 1 月 25 日(水)	
	喰み跡 (本)	喰み跡密集域 (箇所)	喰み跡 (本)	喰み跡密集域 (箇所)
2	11	0	0	0
3	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	4	0	0	0

※調査ポイント 5 は、予備調査ポイントとして設定していたが、平成 25 年度第 2 回 (冬期) から調査を実施。

## ② 喰み跡モニタリング調査の実施(羽地漁協)

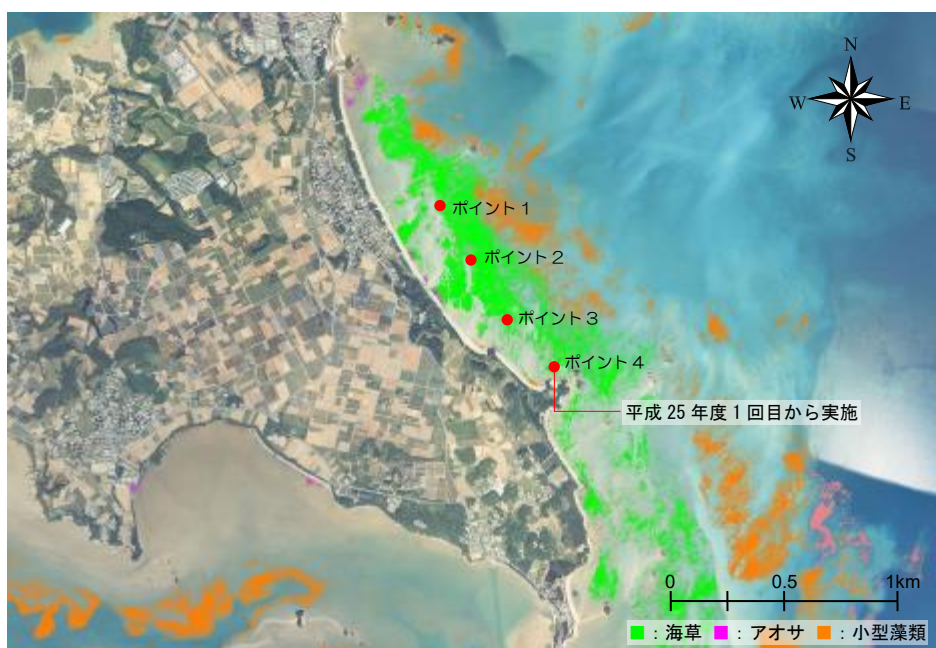
日時：平成28年9月23日(金)(第1回(夏期))

平成29年1月19日(木)(第2回(冬期))

場所：済井出海域(ポイント1~4)

### 調査結果：

- ・本年度調査では、喰み跡は確認されなかった。なお、ポイント4では、平成27年度の夏季調査で喰み跡が確認されている。



※藻場分布図：環境省「ジュゴンと藻場の広域的調査(平成13年度)」画像解析による。図上藻場が無い場所でも、実際の調査地点では藻場が発達している。

### 済井出海域のモニタリング調査地点

### 羽地漁協結果概要(平成27年度)

調査ポイント	第1回(夏期)		第2回(冬期)	
	平成28年9月23日(金)		平成29年1月19日(木)	
	喰み跡 (本)	喰み跡密集域 (箇所)	喰み跡 (本)	喰み跡密集域 (箇所)
1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0

※調査ポイント4は平成25年度第2回(冬期)調査から実施

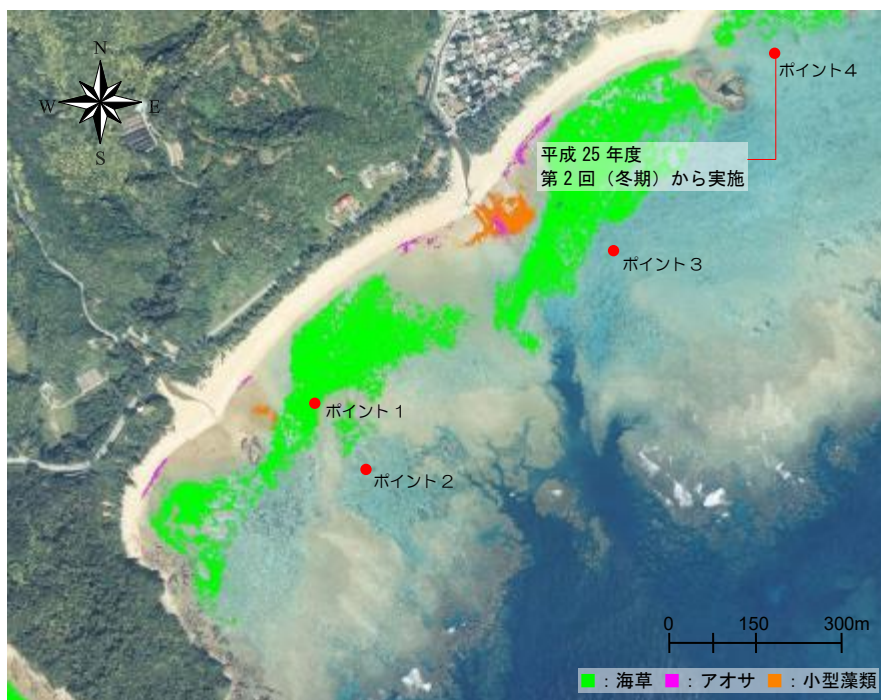
### ③ 喰み跡モニタリング調査の実施(名護漁協汀間支部)

日時：平成28年9月3日(土)(第1回(夏期))  
 平成28年12月6日(金)(第2回(冬期))

場所：嘉陽海域(4箇所。ポイント1~4)

調査結果：

- ・全ての調査ポイントで喰み跡が確認され、餌場として継続した利用が確認された。
- ・嘉陽海域では餌場として継続した利用が確認された。



※藻場分布図：環境省「ジュゴンと藻場の広域的調査(平成13年度)」画像解析による。図上藻場が無い場所でも、実際の調査地点では藻場が発達している。

嘉陽海域のモニタリング調査地点

#### 名護漁協汀間支部調査結果概要(平成28年度)

調査ポイント	第1回(夏期) 平成28年9月3日(土)		第2回(冬期) 平成28年12月6日(火)	
	喰み跡 (本)	喰み跡密集域 (箇所)	喰み跡 (本)	喰み跡密集域 (箇所)
	1	32	3	15
2	0	0	31	2
3	0	0	0	0
4	25	2	20	2

※調査ポイント4は、平成25年度第2回(冬期)から調査を実施。

## (2) ジュゴンと地域社会との共生に向けた取組

---

### 1) 地域の幅広い関係者による懇談会の実施

場 所： 名護市済井出公民館

日 時： 平成 29 年 2 月 22 日（火） 14:00～16:30

参 加 者： 漁協関係者、名護市、沖縄県自然保護課、環境省、NPO、水族館関係者、他

#### ① 喰み跡モニタリング結果紹介

#### ② 講演・事例紹介

- ・サンゴ礁の魚と藻場のつながり（沖縄県水産海洋技術センター 太田 格 氏）
- ・嘉陽海域における市民参加によるジュゴンの喰み跡調査結果の紹介（北限のジュゴン調査チーム・ザン 細川太郎氏）

#### ③ ジュゴンと地域社会との共生に関する意見交換

主な意見交換内容：

##### (羽地漁協)

- ・藻場の重要性について話があった。羽地内海はかつては豊かな藻場で魚も沢山獲れた場所だが、戦後の農地開発などで水質の悪化や海底地形の変化で漁業は大きな打撃を受けている。かつてのように、泳いだり、魚が捕れる豊かな内海に再生して欲しい。

##### (北限のジュゴン調査チーム・ザン)

- ・ジュゴンの子どもが生まれたとしたら嬉しいニュース。ジュゴンを象徴として、健全な藻場の保全、羽地内海の再生など、地域と国と県とが横断的に協力し、力を発揮して頂けたらありがたい。

##### (沖縄県自然保護課)

- ・今年度から沖縄県でもジュゴン保全の取り組みをはじめている。沖縄県としてどのような保護施策が可能なのか、現地調査をともなう検討をはじめている。今日懇談会で挙げた内容は関係部署にも情報を共有していきたい。

##### (環境省)

- ・直接ジュゴンを目にする機会が多い漁業者との取り組みは今後も進めていながら、環境省の役割について考えたい。その中の一つとして、今日のような多様な関係者が意見をもち寄る場の設定は、重要なことだと考えている。